

Cameo Connector for Polarion

アーキテクチャとアプリケーション開発間のシームレスな情報連携を実現

近年、複雑で多分野にまたがるシステムを開発するために、MBSE（モデルベースシステムズエンジニアリング）の考え方を取り入れて、モデルを活用する動きが広がっています。

その一方で、ALM（アプリケーションライフサイクル管理）で管理される要求と、アーキテクチャ設計の中で使用・抽出される要求との間で、一貫性を保つことが重要です。MBSEとALMを連携させることは、デジタルトランスフォーメーション(DX)の実現や、エンジニアリング全体での情報のつながりを確保するために欠かせません。

従来の文書ベースの手法とは異なり、MBSEは多分野システムを「実行可能なモデル」として仕様化することを可能にします。

HCLTech社が開発した「Cameo Connector for Polarion」は、システムモデリングツールで作成したアーキテクチャモデルと、Polarionで管理されるデータをシームレスに連携させるためのソリューションです。

このコネクタにより、Polarionを要求管理に利用しつつ、MBSEのためのシステムモデリングツールも併用している組織において、製品開発プロセスを統合し、効率的で一貫したエンジニアリング環境を実現できます。

Cameo Connector for Polarion

Cameo System Modelerは、SysMLに準拠したモデルやダイアグラムを使って、システムのあらゆる側面を直感的に定義・追跡・視覚化するためのツールです。



ALM データ交換
視覚化
双方向トレーサビリティ

HCLTech

要件、コーディング、テスト、リリースを統合した単一のソリューションにより、チームとプロジェクトを連携させ、アプリケーション開発プロセスを改善します。



SIEMENS

ユースケース

ALMツールとのデータ交換

Polarionの作業項目をインポートし、セマンティックマッピングに基づいて対応するシステムモデリング要素を作成します。

トレーサビリティ情報をシステム設計へエクスポートします。

双方向トレーサビリティ

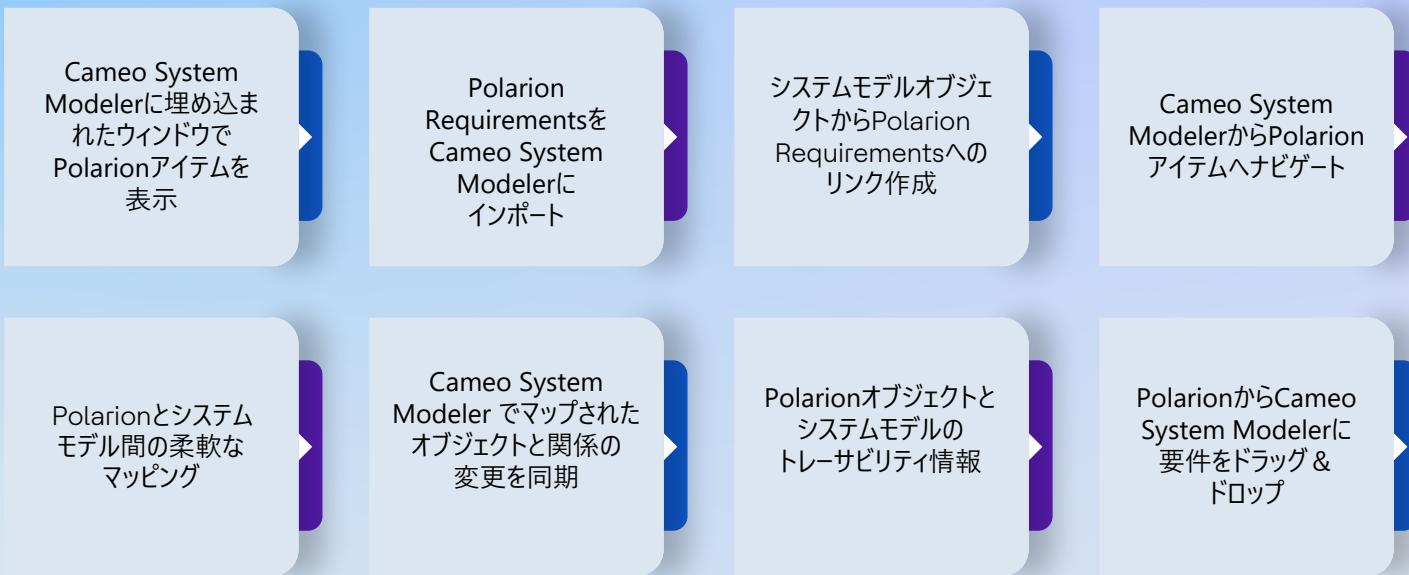
それぞれのツールで作成された要求や設計情報とのつながり（トレーサビリティ）を維持し、変更点のデバッグや影響分析をスムーズに行えるようにします。

属性やリンク情報を双方向に更新・同期できるため、常に最新で一貫したデータを保てます。

ALMデータの視覚化

Cameo System Modelerに埋め込まれたウインドウにより、Polarionで管理された要求やワークアイテムをそのまま表示できます。別ツールへ切り替える必要がなく、ワンクリックで移動できるため、関連情報を素早く確認できます。

主な機能



このソリューションの効果とメリット

効果的なALMデータ管理



このコネクタにより、システム設計者はALMにあるデータをインポートし、ビジネス、ソフトウェア、またはシステムアーキテクチャなどのモデル要素と連携して活用することができます。さらに、Polarionオブジェクトとのリンクを作成することで、Polarion側で発生したすべての変更を同期し、MBSEとALMのデータの整合性を常に保つことができます。

共同設計プロセスの実現



シンプルなデータ連携により、組織全体のチームとスムーズなコラボレーションを実現します。システム設計者は、Cameo System Modelerの画面から離れることなく、ALMシステム上の要件にアクセス、編集、公開、同期することができます。

製品開発の加速



要件、プロセス、設計を統合したプラットフォームで作業できるため、時間とリソースを大幅に節約できます。不要な手戻りや無駄なコストを最小限に抑え、開発サイクルをスピードアップします。

トレーサビリティ



要件・テスト・不具合からシステムモデルまで、一連の流れをつなぐトレーサビリティを実現します。下流の実装情報と上流の計画を結びつけることで、完全なトレーサビリティループを形成し、品質と一貫性を向上させます。

※記載されているロゴ、システム名、製品名は各社及び商標権者の登録商標または商標です。